JR西日本連合第17回委員会

前田議長
グループ全体で安全文化の確立
10春闘に向け強い決意

二月二十二日（月）チサンホテル新大阪において、来賓、幹事、委員、傍聴者を含め約百五十名参加のもとで開催された。冒頭、福知山線脱線事故、伯備線触車事故をはじめとする鉄道事故の犠牲者の御霊に黙祷を捧げた後、議長にＪＲ西労組「松原委員」を選出し議事が進行された。幹事会を代表して前田議長から、ＪＲ西日本グループ全体で安全文化の確立と信頼回復に向け取り組む必要がある。併せて、企業風土の再構築に向けた強い決意を明らかにした。また、二〇一〇春闘もいよいよスタートした。今日まで汗した組合員とその家族の負託に応えるため、黒字である以上公正な成果配分を求める闘いを展開すると挨拶があった。議事では、八名の委員から積極的な発言があり、満場一致で当面の活動方針を決定した。

雇用・賃上げ・生活改善を実現へ積極的な発言のあった
JR西連合第17回委員会

―スローガン―

1. 職場の着実な運動を積み重ね、すべてのＪＲ関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロを完遂しよう！
2. ＪＲで働くすべての労働者の雇用確保・賃上げ・生活改善を実現する2010春季生活闘争を創り上げよう！
3. ＪＲ西日本連合50単組3万6千名組織とパート労働者の組織化を目指し、21世紀をリードする労働運動を確立しよう！
4. 労働協約（労使間ルール・労働条件）の締結を確立しよう！
5. 来るべき参議院議員選挙において、国民本位、働く者の声が反映する政治を目指そう！

第6回綱引き大会
「米子地方本部3連覇!!」

ＪＲ西労組「第六回綱引き大会」は、二月二十三日、二十四日の両日万全の準備を整えた和歌山地本主管のもと、盛大に開催された。

会場となった和歌山「白浜町立総合体育館」には、各地方本部の代表選手・準備員など大会関係者含め、約百四十名が集い『力と技が激突』する、白熱した熱戦が展開された。

競技は全チーム総当り戦（全八十六試合）で競われ、勝ち点で順位を決定した。

二日間でのハードな闘いであったが、全選手ともケガもなく、「プル」の掛け声と共に綱を全力で引いた結果、優勝は第五回大会に続き米子地本が栄冠を手にした。準優勝は西バス地本。三位は福知山地本となった。

優　勝・米子地方本部
準優勝・西バス地方本部
第三位・福知山地方本部

※各地方本部代表選手・和歌山地本（準備員）・大会関係者のみなさまご苦労様でした！

綱引き大会は和歌山地本主管のもと無事に行われた

安全を科学する ㉜

第4回安全シンポジウム基調講演から
「労働安全の枠組み～人間の得意なこと、不得意なこと～」

労働科学研究所客員研究員　**飯田　裕康氏**

あれに「注意しろ！」は、他のものはみんな注意しなくてもいいということ

安全というと、「注意」という行動・言葉なしには語れません。なんでも「注意しなさい」、あれも注意し、これも注意しと、何かと使われ続けています。働くときに使っている注意というのは、「選択的注意」「意識的な注意」と言われるもので、学問的にも非常に捉えがたい概念です。外から見ていて何に注意しているかは観察できないので、サイエンスの実証的なテーブルにはなかなか載りません。

意識的な注意には限界があります。目盛りの十分の一を読み取りなさいという時に、横で何がおこっていても殆ど気がつかない。細かくそこから情報を取ろうとすると、ズームレンズのようなもので、注意の深さというか、視野が狭くなるのは、自分の経験を整理してみたらすぐに分かると思います。また、お風呂に水を入れながら、別なことをしていると、溢れさせてしまったというようなことは誰もが経験しています。日常活動の中では、その手のことはいくらでもあります。注意というのは、複数のことを同時にというのはなかなか難しく、注意しなくてはならないことがあればあるほど、他のものは不注意になります。ですから、あれに「注意しろ！」ということは、他のものはみんな注意しなくてもいいということと同じことなのです。これが「注意」というものの基本的な性質です。

それからまた、変化しないことやものに、ずっと注意し続けるというのもまた苦手なもので、これは「電車が来るか来ないか見張っている」という状況に非常に近いのです。基本的に、生物における注意というのは、外界の変化にいかに対応するという形で進化してきたので、変化しないものに対して、注意をし続けることは、物凄く不得手です。ですから、よく作業前のミーティングで、「あれに注意して、これに注意して」、といっぱい言われますが、言うほうはいいのです。言っといたぞと言えばいいのですから。言われたほうは、「そりゃあまあ、聞きましたけど」と言うしかなく、どうしようもないのです。

作業の最中に言われたことをいちいち思い出す人なんていません。そんなことはできる訳がありません。そこをどうするかが、具体的にならない限り安全対策とは言えません。「実行可能な」というのが、安全対策の最後の決め手となります。それが確保されない限り、どんないい安全対策だろうが、単にお飾りにしか過ぎません。

注　意

注意は限界に達しやすい能力資源である。変化の乏しいものに注意し続けることは難しい（時間的制約がある）し、空間的にも制約がある。

◇前注意過程（無意識に近い注意）
広く浅い処理機構（並列処理）。大きな音・目立つ光などの強い（変化量の大きい）刺激、自分の名前などには気がつきやすいが、内容の処理は詳細さに欠ける。（警報などに利用される）

◇選択的注意（意識的な注意）～焦点の問題
意識的な注意には限界がある。一つのものに焦点をあてれば深い（詳細な）処理ができるが、他のものへの注意が薄くなる（時分割処理にならざるを得ない）。従って注意すべきことが多ければ、不注意はいくらでも発生する。
また、焦点の選び方には、その時利用されているスキーマ（規則性・関連性などを利用した記憶のまとめ方）や短期記憶の影響を強く受ける。期待や予期によって「見たいように見て、聞きたいように聞く」。

街で出会った“こんな時”は？ ③

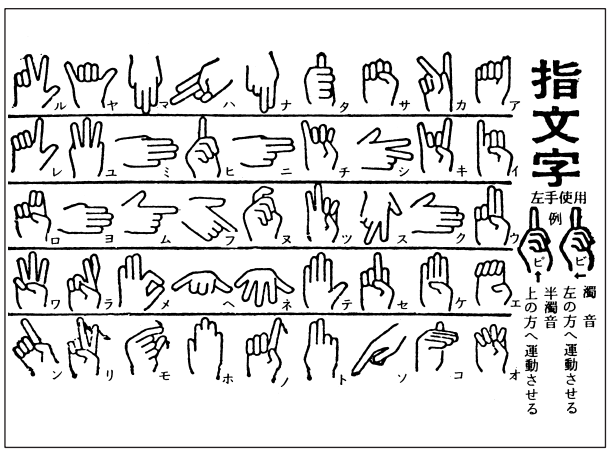
耳の不自由な方を見かけたら？

前々号にも掲載しましたが、

「私は手話を知らないので会話ができない」

なんてことはありません。相手をしっかり見て、身振り手振りを交えながら、はっきりと口を開けてしゃべれば相手に伝わります。

参考に手話の指文字を掲載します。



ランキング

■昼休みに息抜きとしてすること――

原則として労働時間が八時間を超える場合は最低でも一時間が必要とされる休憩時間。昼食としての時間が主だが、それ以外には何をしている？息抜きとしてすることランキングは次のとおり。

①自席で昼寝
②ネットサーフィン
③ランチ仲間とおしゃべり
④読書
⑤テレビを見る
⑥喫茶店で休憩
⑦音楽を聴く
⑧ポータブルゲーム
⑨ブログを書く、読む
⑩外で昼寝

ということになった。食事のあとにほんの十五～三十分程度でも仮眠を取っていれば、頭がすっきりするもの。ｇｏｏランクではトップとなった。